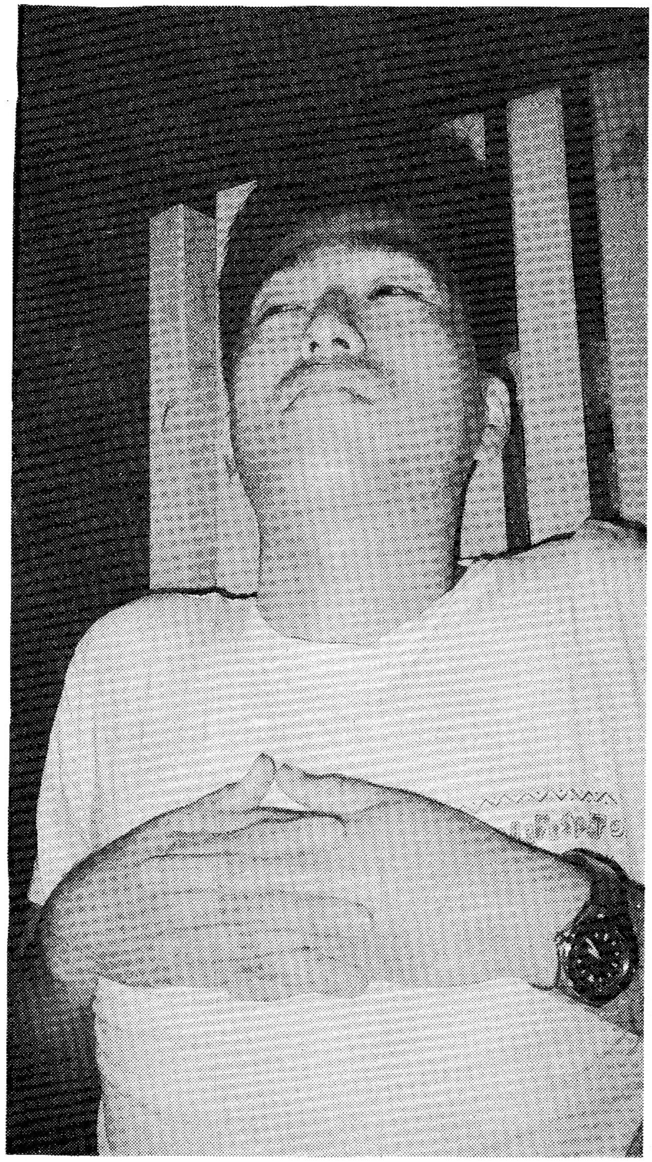
幸治亮の

音信不通

フハツ増刊

幸治堯の

音信不通

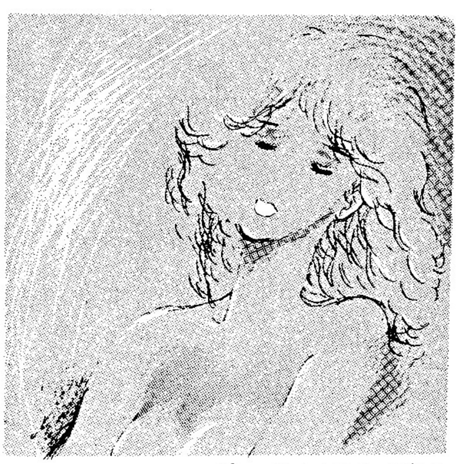


【音信不通とは？】

音信不通とは、水木伝説・会員№70 幸治堯の別名である。

彼は、1991年『水木伝説・サマーイベント'91』に於いて、四六時中ビデオカメラを回し続け、その全貌を手中に収める。が、撮りおえたビデオは、「編集し、水木伝説本部に即送る」と豪語したにもかかわらず、翌年イベント当日まで、完全な音信不通であった。それからというもの、彼は、水木伝説内で音信不通と呼ばれるようになった。

もくじ



口は吸われるものである





音信不通

（第[illegible]号）

いや～‥‥暮れも押し迫って今年もそろそろ終わりですが、皆さんは如何お過ごしでしょうか？　思い返せば今年もいろいろな事が有りましたが、我ら『**水木伝説**』にとっても今年は激動と混乱、そして大いなる変化の年だったと思います。

天保の大飢饉以来と騒がれる今年の大凶作と米騒動を招いた異常気象をものともせず、ほとんど「**ええじゃないか**」状態で突っ走った、冷夏の中での『**サマーイベント’９３**』（別に異常気象じゃなくても、参加者全員毎年ええじゃないか状態だと言う指摘も有りますが）。

雨後の筍どころか、小和田雅子様の御成婚フィーバーの如く日本各地で熱狂的に開催された各種の『**水木しげる＆妖怪**』イベント。（どうでもいい事だが、雅子の実家が私の下宿の同じ町内に有るので深夜にコンビニに行こうとすると必ず私服及び制服の警察官に取り囲まれて職務質問されてしまうので、最近では顔馴染みのお巡りさんまでできてしまい、友人達に「権力の犬」とか「こうもり野郎」とか「ケルベロス」などと煽てられている）

そのイベントの為に日本中を東奔西走した我らが妖怪博士『**水木しげる**』　大先生と、その後を付け馬の如く、限なく追い駆けた水木伝説のスタッフと会員達。

「**水木伝説**」や「**フハッ**」が大々的にマスコミに取り上げられた為か、飛躍的に伸びた入会者数（特に、**きくち正太**先生が入会したとの特報には腰が抜けて、腎虚になる位びっくりした。サイン下さい！！）。

そして何よりも今年の重大ニュースとして取り上げなければならないのは、チビハゲの嫌がらせにも負けずに「**水木伝説**」を引っ張って来た**馬場会長**が満を期して世に送り出した、一筆入魂の一冊！？　究極の秘密本『**ゲゲゲの鬼太郎の大秘密**』（松文館　９８０円）だぁっ！！

水木ファンなら一家に一冊聖書の代わりに揃えておきたいこの本。他の、ひと山幾らの秘密本とは一線を画いた豪華なつくりは御歳暮や、入学祝いに贈っても喜ばれること間違い無し！　君はもう買ったかな？

もちろん買ったよね！？
‥‥何？　買ってない？
馬鹿モノ何やっとる！
早よ買いにいかんかい！！

とにかく、年末になるとどのＴＶ番組でも必ずお約束の如くやる、今年流行したモノのコーナーで、他のゴミみたいな秘密本たちに囲まれて必ず映る『**ゲ鬼密**』を君も１冊といわず５～６冊買って親類縁者やお世話になったあの人に贈りつけよう！！

きくち正太先生が入会なさったときにつくづ゛く思ったのだが、手塚治虫を神と崇め、憧れる漫画家や、小説家がいるように、我らが**水木しげる**先生を神と崇め、憧れる漫画家や小説家が実は結構いるのだ。（考えてみれば、田河水包なき後日本の漫画界では水木先生が最年長である。ファンが多いのは当たり前か‥‥）

目というのは本来は人の意識や無意識を非常に良く表現するものなんです。いつもはキョロキョロよく立ち働く、愛想のいいものなんですが、それが座って突然何もしなくなっちゃう（図7）。だから怖いんですね。

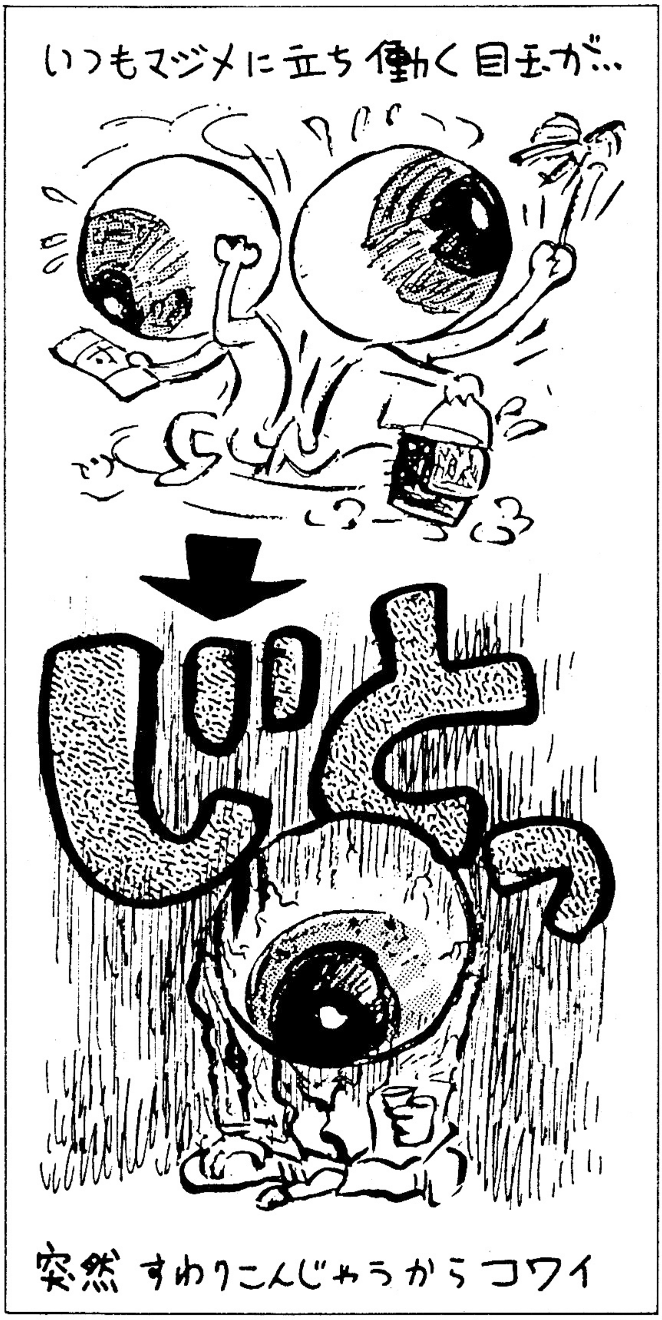


図7

講座（夏目房之介著より）

例えば漫画家では‥‥

①「鴨川つばめ」　きくち正太先生の先輩に当たる漫画家で、かつて山上たつひこや手塚治虫と共に、「週間少年チャンピオン」を紛れもなく日本漫画雑誌界の王者に盛り上げた偉大なる天才漫画家。私は彼の代表作「マカロニほうれん草」の話題になると、翌朝になっても話が終わらないくらいに入れ込んでいるのですが、彼の漫画の中には明らかに水木先生の妖怪画集を参考にしたと思われる妖怪達が随所に描き込まれているのです。１５年以上前の漫画だが今読み返してみてもその斬新な手法は少しも色褪せていないことに驚かされます。

（鴨川つばめ先生の消息を御存知の方はぜひ御一報下さい。お願いします。）

②「片山まさゆき」　漫画も描けて雀荘も経営するプロ雀師。かつて自分のデビュー作「ぎゅわんぶらあ　自己中心派」で鬼太郎一家に麻雀をさせた事がある。描きやすい爲か、茶碗風呂に入った目玉おやじは今でもちょくちょく出ている。

③「とり・みき」　この人もかつて「少年チャンピオン」で大活躍し、雑誌と共にその地位を不動のモノとした漫画家。「少チャン」連載時にもときどき鬼太郎一家が登場していたが、「とり・みきのキネコミカ」では「ゴースト・バスターズ」のとんでもないパロディーを描いている。

そのほか東京ローカルのＴＶ番組「タモリ倶楽部」に出演した時や、宅八郎との対談でも自ら水木ファンである事を認めている。

④「内田春菊」　今や育児漫画家に転向かと言われているこの人もかつて、ある雑誌で水木しげる特集をやった時に自ら先生の妖怪画を模写して「真似して点描で描いたら腕がつった」とか「水木先生の絵はこの妖怪が本当にいるという気持ちにさせられる」と言うようなコメントを寄せていた。（あれは何という雑誌だったっけ‥‥？知っている人がいたら御一報下さい。）

雑誌の対談やエッセイを読むと、どーもネズミ男がいちばんお気に入りらしい。

⑤「西原理恵子」　現代を生きる人々が忘れようとしている大事なものをポエムや漫画で教えてくれるイラストレイターであり、莫大な金額の借金を背負う破滅型のギャンブラーでもあるこの人。やはり雑誌の対談で鬼太郎一家の大ファンであると語っている。

次に小説家では‥‥

①「中島らも」　関西ではおそらく知らぬ者も無いであろうと思われるエッセイスト。彼の書いた本全冊と、マネージャーのわかぎえふ嬢の書いた本を読んでこの人ももしやと思っていたら、「恋は底ぢから」（JICC出版）という本に茶碗風呂に入る目玉親父のイラストがっ！！

②「夏目房之介」　夏目漱石の孫であり、イラストレーターであり、エッセイストでもあるこの人が、手塚治虫と水木しげるマニアなのはかなり有名。特にＮＨＫの「土曜倶楽部」というＴＶ番組では毎回、イラストも書けるコメンテイターとして出演していたが、そのイラストに何回も目玉親父が出演していた。
　その著書の中にも何回か鬼太郎一家が出演している。

③「高田文夫」　放送作家界の文豪と呼ばれ、東京のお笑い界のドンであり、立川藤志楼という名で年に何回か紀ノ国屋ホールを満杯にするこの人は、鬼太郎一家を自分のラジオやＴＶ番組でネタにしたり、高座で落語の枕に使ったりする洒落者だが、もっと凄いのが彼を組長とする関東高田組に属する若手作家やコメディアン、芸人、落語家達で、鬼太郎一家をネタしてメチャクチャ危ないコントや落語を創ったりする（もちろんＴＶ・ラジオには流せないし、活字にもならない。ライブでのみ聞ける）のだ。

……とまあ私が知っているのはこの程度ですが、これを読んで「私は××という漫画家が水木ファンなのを知っている」とか「△△という作家も怪しいと思う」という人は、どうか【私だけが知っているのコーナー】迄どしどしお手紙下さい待ってます。

最後になりましたがちょっと悲しいお知らせがあります。
すでに「宇宙船　秋号」でも速報が入っていましたが、「悪魔くん」のメフィスト（ちっきしょー…　水木作品のキャラクターの中で一番好きだったのに…）「仮面ライダー」でのショッカー幹部・地獄大使（天本英世の死神博士より恐かったぜ）「七色仮面」でのさそりの万吉などを演じた希代の名優『潮 健児』（大正１４年　東京生まれ　本名・益戸正雄）さんが、９月１９日　午前０時２８分　肝臓癌の為に鬼籍に御入りになられました。
　東映映画史そのものといわれる４０数年間の役者人生を綴った「星を喰った男」の出版記念パーティーの翌日だったそうです。
　ここに深く哀悼の意を表すと共に、ご冥福を御祈りいたします。


南島での休暇となると当然
わくわく
どんな本を読もうか
まず持ってゆく本の選択をする。これが……
楽しいが、またむずかしい。なんとなればあまり経験しないことなので
向こうで何が読みたくなるか？
わからないからである。
と、ゆうわけでまず
持っていったが読まなかった本
は何かとゆーと
アースワークス
ライアル・ワトソンの『アースワークス』（ちくま文庫）
意外とこーゆーの読まんのよね
おあつらえって感じするけど……
シュヴェーグラー『西洋哲学史』上巻（岩波文庫）
退屈向きって持ってったけど、やはり南島向きではなかった
は？
では
じっさいに読んだのは何かとゆーと
司馬遼太郎『項羽と劉邦』上中下（新潮文庫）
イメージが違うのう……
だって面白いんだもん
トレヴェニアン『シブミ』上下（早川文庫）
これは囲碁を通して日本の心"シブミ"を身につけた暗殺者の話で、いささか日本ビイキのヒキ倒しのケもあるが、面白い
シブミ
そして水木しげる『ねずみ男の冒険』（ちくま文庫）
けけっ
結局これが一番あっていた気がする
今度いくときはこのテのマンガを選んでくことにしよっと……



読書学（第2章 まともなマンガの読み方）より【夏目房之介著】


日本マンガの体型
なんでワシなの!?
Dialogue balloons
マーヴェルコミックスのバランス
日本マンガの女性の顔
楚々
マーヴェル式に描いてみました
アーハー?
手足が異様にのびてしまうので どーしても和装はチンチクリンになる
マーヴェル式 眼は小さくなり 鼻の高さで左眼がかくれたりする
くどい
日本マンガのアクション
ダダダダダ。。
ハ…ハルクだ これでは超人ハルクではないかー!
く、口が描けん!
マーヴェル的に見ると、何てブカッコーなファイティングポーズなんだっ でも、そこがいいんだがっ!!



図10

講座(夏目房之介著)より

■マンガにおける涙の考察

もうひとつ、マンガにおいては、非常に、特殊な涙もあるということをご紹介したい。えー、みなさんご存知の水木しげる「**墓場の鬼太郎**」(注⑩)から、これは鬼太郎のお父さん、目玉の親父ですけど、彼は目玉が顔です（図10）。ところが、目玉の虹彩(こうさい)から涙が沁み出しているんですね（一瞬の間(ま)ののち笑）。これはさすがに妖怪だと思います。こういうことは、人間には出来ません。この涙によって、**妖怪的存在感**を出しているという、マンガの中では、涙といえども複雑な役割を果たしているんですね。(注⑪)

今日はここまで。

⑩「墓場の鬼太郎」昭和40～49年・週刊少年マガジン掲載。ただし途中から「ゲゲゲの鬼太郎」として連載。これ以前には紙芝居、貸本などがあり、つい最近TVアニメとともに復活。妖怪界のドラえもんとして、不滅ぶりを示した。

⑪はっきり言って、こーゆーマンガ分析をやらせたら筆者の右に出るものはいない。(誰もバカらしくてやらないだけだっつの)

「温度」を食べる

グツグツグツ、ポコポコポコ。
「おい、母さん、その辺はまだダメだ。こっちのほうなら煮えてるよ」
「あら、いやだ。あたしったら口のいやしい」
「何を言ってるんだ。ほら、ワシが取ってあげよう。器をお貸し」
「あら、すみませんねえ」
「おい、よしお。お前もおかわりしろ。父さん、よそってあげる」
「……ぼく……もう、いい」
「何を言っとる、育ち盛りの子供が！　さあ、おかわりしなさい」
「よしお、お父さん、ああおっしゃってるんだから…」
「じゃ…一杯だけだよ」
「よしっ、貸してみろ。よいしょっと。ほら、熱いから気をつけろよ」

恋は底ぢから（中島らも著）より



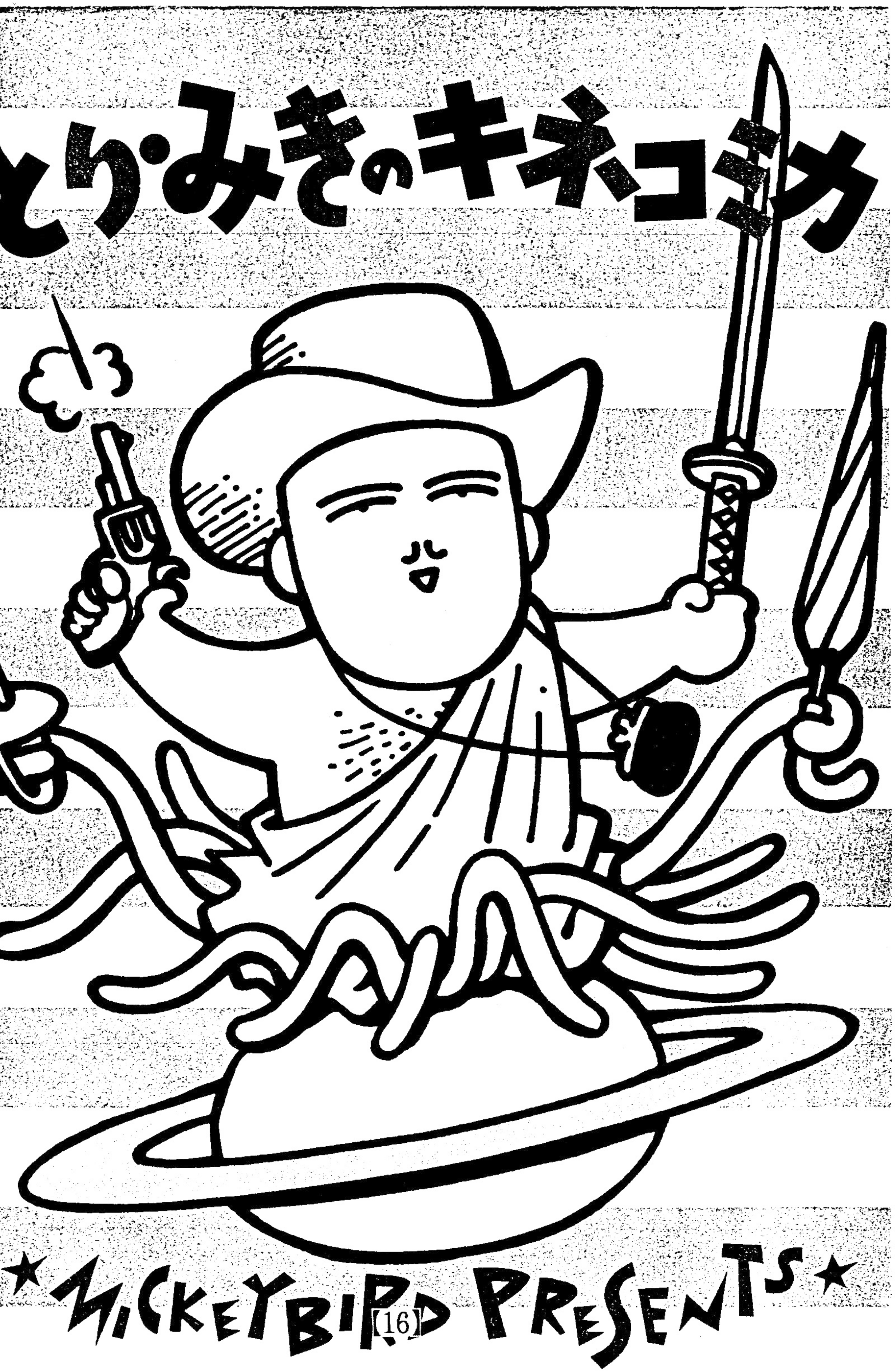




「……うん。……ゴクッ、ゴクッ、ゴクッ。ごちそうさま」
「よおし!」
「ね…父さん…」
「ん? 何だ」
「いくら給料前だからって、わざわざ土鍋でお湯わかして家族で囲むの……もうやめようよ……。ね!?」

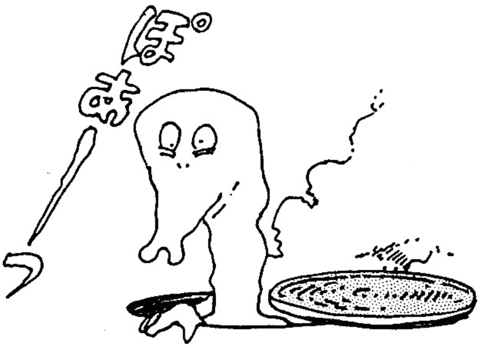
というひどいコントをこの前書いた。

　お湯のボコボコわいてるのを前にして、何が「その辺は煮えてる」だ、と思うが、状況によっては一杯の白湯が無上のご馳走に変わる

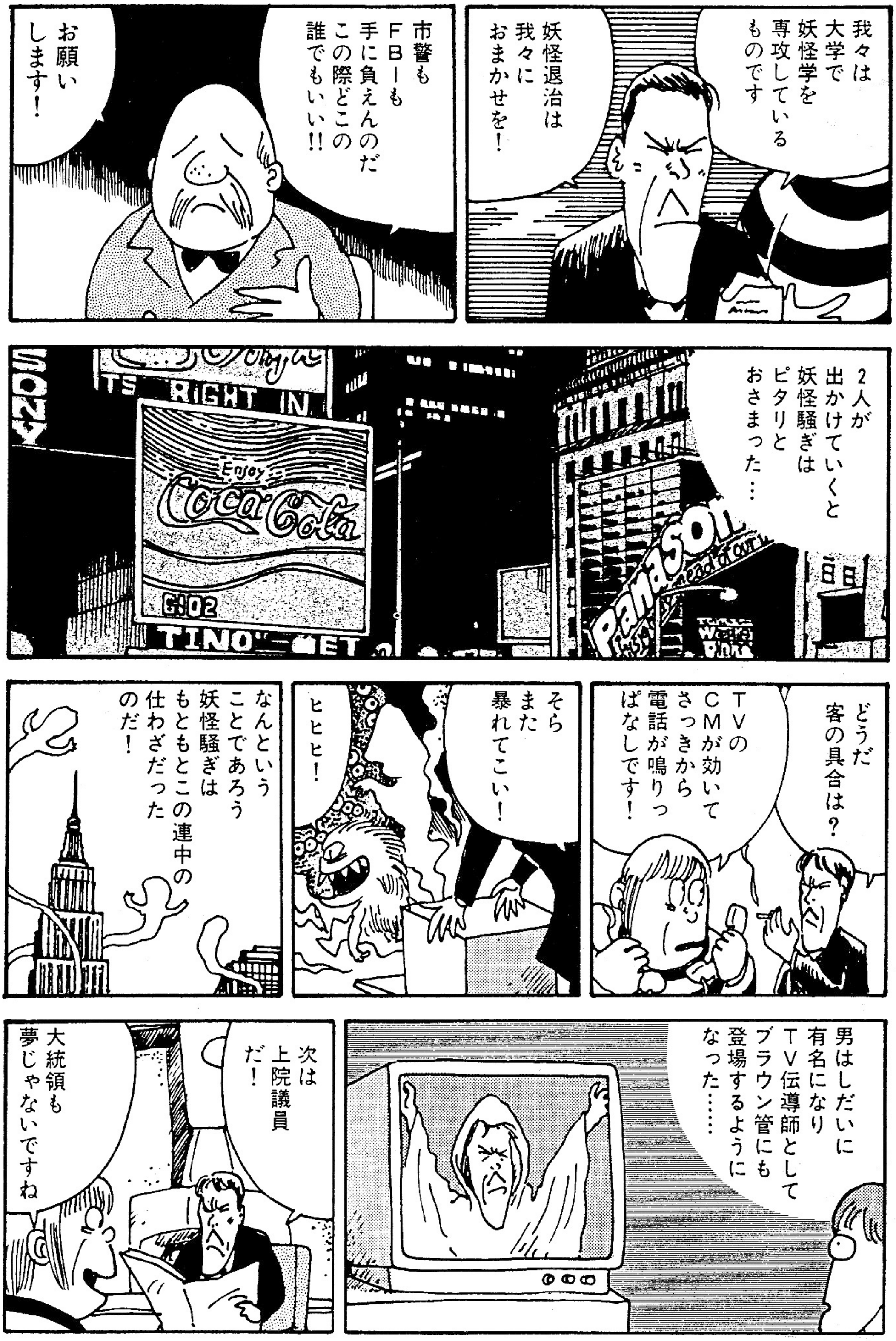

とり・みきのキネコミカ
★MICKEYBIRD PRESENTS★

ゴーストバスターズ

GHOSTBUSTERS







我々は大学で妖怪学を専攻しているものです
妖怪退治は我々におまかせを！
市警もFBIも手に負えんのだこの際どこの誰でもいい!!
お願いします！
2人が出かけていくと妖怪騒ぎはピタリとおさまった…
SONY
RIGHT IN
Enjoy
Coca-Cola
どうだ客の具合は？
TVのCMが効いてさっきから電話が鳴りっぱなしです！
そらまた暴れてこい！
ヒヒヒ！
なんということであろう妖怪騒ぎはもともとこの連中の仕わざだったのだ！
男はしだいに有名になりTV伝導師としてブラウン管にも登場するようになった……
次は上院議員だ！
大統領も夢じゃないですね


しかし妖怪たちを甘くみていたのがいけなかった……
兄貴たいへんだ！
なんだと!?
ばかやろう先生と呼べ先生と！
ビビビビビビビン
あっ!!
それどころじゃねェ妖怪たちがストを!!
スト!?
どうした!? 食い物はハンバーガーをちゃんと毎食与えてるだろう？
冗談じゃないキャデラックやリンカーンを派手に乗り回せるようになったのは誰のおかげだと思ってるんだ
もうお前らのいいなりになってるのはたくさんだ!!
オレ達自身でこの国をのっとってやる！
妖怪たちは一つの大きな集合体となり自由の女神像に入りこむと貿易センタービルに登りはじめた……
うししし……


おお
なんとまあ
ハレンチな
姿であろう
……
先生
はやく
なんとかして
ください!!
もう
我々の力では
どうにも
ならん……
ああなんという
ことだ
ちょいとばかり
妖怪に詳しいから
といってそれで
お金をもうけようと
思ったのが
まちがいだったのだ
……
?
これは……
もしかして
妖怪ポスト!?
そうだ!!
日本に住む
あの方なら…!?
男が
妖怪ポストに
手紙を入れると……
カァー
カァー
日本から
その方がやってきて
たちまち妖怪を
退治してしまった


みろ
日本の力を!?
経済力
だけじゃない
やはり日本は
偉大な神秘の国
だったのだ!?
みんな
リーボックを脱いで
きょうからゲタを
はこう!!
しかしNYの
象徴である
自由の女神像が
壊れてしまったのは
なんとも惜しい
……
これも
みんな
お前らのせいだ!!
内心 人々は
妖怪どうしの戦いとはいえ
アメリカが日本に負けた
のが かなりショックだった
のであろう
とはいえ
以前の恐ろしい
NYに戻るのは
困る!
どうか
いつまでも
ここにいて
ください!
それは
できませんが
……
守り神として
壊れた女神像の
かわりに………
日本を代表する
良心的なオバケを
形どって建立されたのが
この像でございます!
毎年
夏には同じく
日本から伝わった
霊を鎮める行事
〝ボンオドリ〟も
この像の周りで
開かれることに……
ああ
グッド・オールド
NYよ
いずこ……

少年マンガ画報

文 高取英＋絵 喜国雅彦



悪魔くん

〔水木しげる〕

水木しげるの「悪魔くん」は、実写でTVドラマ化されている。よく見ていた。悪魔くんを演じていた少年は、金子光伸。作家の姫野カオルコが「ガラスの仮面の告白」の中で、小2の時、恋したと書いている。ちょっと美少年で、りりしかった。悪魔メフィストを演じたのは吉田義男で、ドジで図太く、おっちょこちょいのおじさんメフィスト役が似合っていた。

「悪魔くん」は最初、貸本マンガの単行本で登場したが、このTV化は、'66年から時々『少年マガジン』に掲載された作品の方だ。悪魔くんがメフィストを使って、化け物と戦い、勝つ、といったパターンだ。

魔法陣を前に、〈エロイム　エッサイム　われはもとめ　うったえり……〉と、悪魔くんが唱えると、メフィストが出てくるのだ。

この作品では、最初失敗するが、ファウスト博士の助けによって成功する。そして、ファウスト博士にもらったソロモンの笛によってメフィストを操るのだ。この笛を吹くと、メフィストは苦しくなって、いうことをきく。「西遊記」の三蔵法師がお経をあげると、孫悟空の頭にはまった輪がしまって苦しくなるのと同じパターンだ。

メフィストの武器は、〈魔力絶対零度!〉。メフィストの息を吹きかけると、凍りつくものだ。他に〈魔力細胞変化!〉といって、敵を細胞化してしまうもの、〈魔力の電気!〉といって、頭の角(つの)から電気を出すもの、〈魔力砂嵐し〉〈魔力放電〉などがある。

悪魔くんは、山田真吾少年で、親友の情報屋、貧太などが仲間だ。目的は「人類のゆめ……地球が一つになり万人が兄弟になる国を実現」することだ。



これが悪魔を呼び出す
魔法陣だ。数字を1つ
間違えても大変な事
になるから気をつけよう
とはいうもののマンガに
出てくるたびに数字が
ちがってりるのでケッコウ
いい加減だ。呪文は
もちろん「エロイム エッサ
イム！ われはもとめ うった
えたり！」だ
第一話では
こうだった
「ソロモンの笛」
第二話からは
こうなる
多分テレビ化
にあわせてだと
思う
貸本版には登場人物紹介の
ページの次に登場物品紹介の
ページがあり これが笑える。
「ソロモンの笛」はいいとして
あと載ってりるのは
「奥軽井沢の土地」と「九千万円」だ
奥軽井沢の土地
九千万円
女性キャラは
つげ義春を彷彿させる
それもそのはず
つげ義春は水木しげるの
アシスタントを
していたと
何かで読んだ
事がある
私が一番気に入った
天の岩戸に
とじこめられていた
妖怪「もののけ」
なんか怖い
変にリアルだ
「ドラクエ」じゃ
ないが進化しそうだ
オリジナル悪魔くん
千年王国版悪魔くん
少年マガジン版悪魔くん
この時代の人にとっては
どちらも「ソロモンの笛」と
同じぐらい遠い存在
だったのに違いない
犬小屋に
すまわされ
エサは犬の残り物
という人間に全く
相手にされない
カワイソウな妖怪「百目の
子供」
味わい深い水木キャラ
テレビ版
にはペロリゴンという
怪獣が出てきたが身長四十メートル
のくせに東京タワーをたおしたりする。
これだと三百五十メートルはあるど
平和な時代だ。なおマンガの方
にはビチゴンと名を変え「グン」を
はく怪獣として
登場する
このへんの
とぼけ具合が
水木まんがだ
先日観た映画
「ミディアン」は
ほとんで
「妖怪大戦争」だ

最初の敵はインド人の魔法使い。次は百目という妖怪を殺してその中に入った月人。2万年前の月の人だ。この章で百目の子供が登場する。なかなか、かわいいオバケだ。

その次は、なんじゃもんじゃだ。この、なんじゃもんじゃには、〈魔力細胞変化〉が効かない。地獄のエンマがリモコン（電波）で操っているからだ。そこでメフィストたちは仲間を連れて、1万年ぶりに地獄に攻め入る。スゲ～。エンマは〈黒い霧〉が地上に出たので、なんじゃもんじゃを操ったという。水木しげるの思想が出ている。〈黒い霧〉とは、政治家の汚職のことだ。

他に怪獣ビチゴンや西洋館の老婆と闘う。

そして、クモ仙人。この巻では魔女がメフィストの親類として登場。百目少年を養子として連れていく。この時、魔法陣の中にソロモンの笛をもっていき、悪魔をよびだせなくなった悪魔くんは、平凡な子供になってしまう。

この『少年マガジン』版の「悪魔くん」は、お子さま向けといってもよいものだ。

本来、貸本マンガ版の「悪魔くん」は、千年王国をめざす革命マンガである。この貸本版は、後に改訂され、今は「悪魔くん千年王国」として、ちくま文庫におさめられている。

悪魔くんこと松下一郎は、何万年に1人という大天才。貧乏人のいない世界国家を作ろうと考え、悪魔を呼び出す。もと悪魔くんの家庭教師が、「蛙男」の霊に肉体も魂も乗っとられ、「蛙男」となって部下としてつかえる。

そして、佐藤という美少年も悪魔くんの家庭教師として登場し、ヤモリの魔法使い「ヤモリビト」に変形させられる。しかし、彼はインドの呪医・フランネールによって魂は助けられ、ヤモリビトの顔の皮を

かぶり、部下としてつかえるふりをする。
さて、悪魔くんの父は、日本三大電機メーカーの1つ、太平洋電機の社長だ。悪魔くんの呼び出した悪魔・ベルゼブブは、空飛ぶホウキを悪魔くんの父に売りつけ、会社を奪ってしまう。この過程で、悪魔くんの敵・サタンをダイヤの中に閉じこめるが、それを助けにスフィンクスが東京を襲う。これを阻止した悪魔くんは東京中の小学生を味方にして、空飛ぶホウキの中で戦い、日本に勝つのだ。
サタンは、アメリカを味方にせよといい、アメリカとも悪魔くんは戦う。続いてソ連軍とも戦う。それにも勝ち、世界革命にむかうが、ヤモリビトになりすました佐藤が裏切り、悪魔くんは、警官に射殺されてしまう。
ヤモリビトこと佐藤は、3千万円で悪魔くんを警官に売ったのだ。キリストを売ったユダのパターンだ。そして悪魔にだまされ貧乏になった佐藤は、はじめて自分のまちがいを知る。悪魔くんはよみがえり、「千年王国戦争」が再び開始されるところで物語は終る。
キリスト、シャカ、マルクス、悪魔くんは、方法は違うが根本は同じだと、水木しげるは蛙男にいわせている。
貸本マンガが生んだ革命マンガは、白土三平の「忍者武芸帳」が有名だが、もうひとつには、水木しげるの「悪魔くん」があったのだ。
なお『少年マガジン』版のメフィストは、ヤモリビトと同じ顔となっている。

ゲゲゲの鬼太郎

〔水木しげる〕

僕が初めて、「墓場鬼太郎」を読んだのは、堺市北野田駅の商店街のはずれにある貸本屋であった。それは兎月書房が刊行したものである。小学生の僕は、そのグロテスクさにゾッとしたものだ。

紙芝居の「空手鬼太郎」から貸本漫画へ至り、やがて『少年マガジン』『少年サンデー』で人気を呼び、TVアニメ化もされる「ゲゲゲの鬼太郎」は、貸本時代、「墓場鬼太郎」というタイトルだったのだ。

人類出現以前から住んでいた幽霊族は、人間に圧迫されて森に住み、やがて穴の中に住んでいた。そして最後の夫婦となって人間界にでてきたが、不治の病となってしまった。この夫婦の子供が鬼太郎だ。夫婦は死に、父親の死体から目玉が1つ落ち、それが生きだす。この目玉が鬼太郎の父親である。

今読むと、幽霊族の歴史はどことなく先住民の歴史を思わせる。

しかし、小学生の僕は、死体から落ちる目玉にゾッとした。それが後に、鬼太郎の目玉のお父さんとして人気者になるとは……。

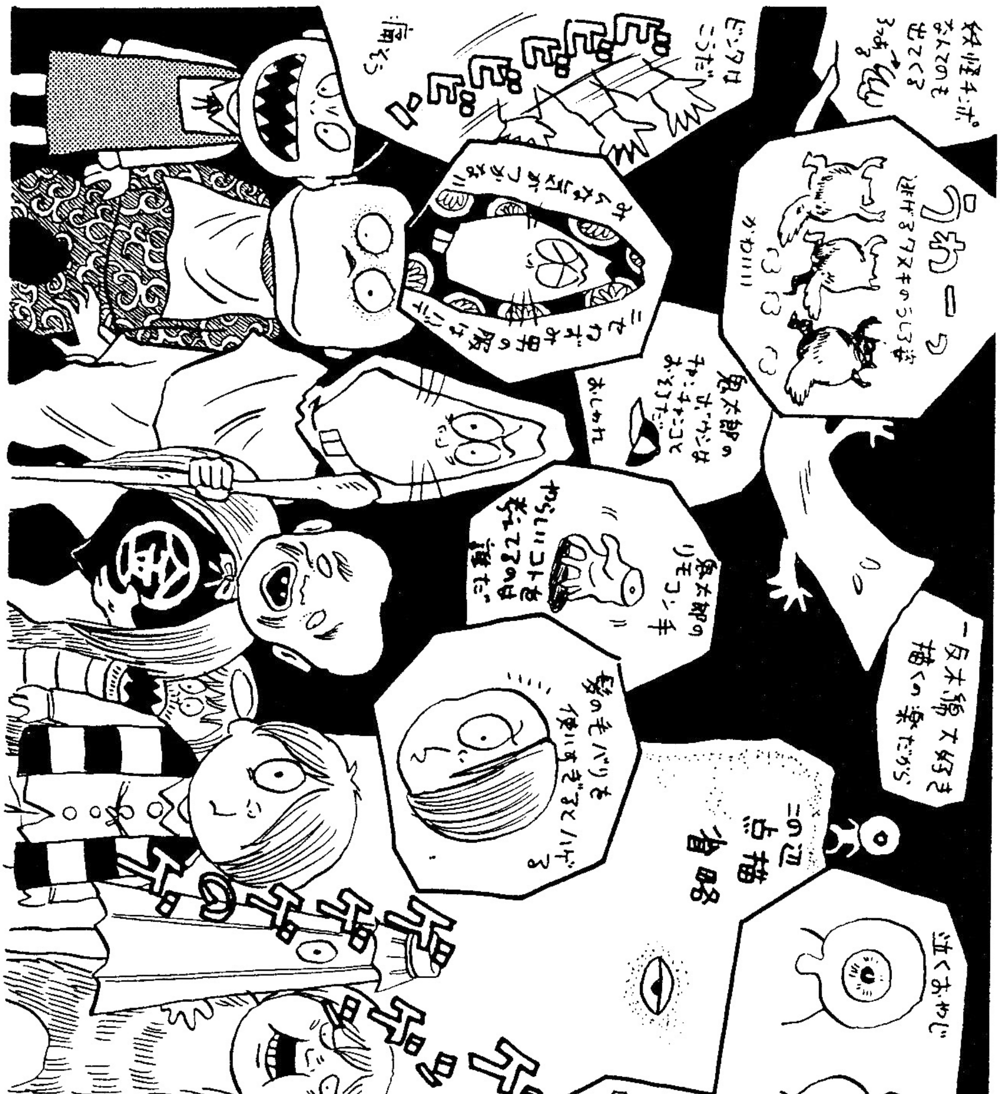
「ゲゲゲの鬼太郎」が他のヒーローと違っていた点は、のんびりしていることと、名ワキ役・ねずみ男が功利的で、自らの利のためなら鬼太郎をすぐ裏切り、敵につく点だろう。そして、すぐにまた改心するねずみ男を、鬼太郎は許してしまう。TVアニメ化された時の主題歌は、

〽楽しいな　楽しいな　お化けにゃ学校も　試験もなんにもない

というものであった。

この歌は、鬼太郎ののんびりした、のどかな気分を現していた。

「鉄腕アトム」にも「まぼろし探偵」にも、こののんびりしたムードはなかった。



妖怪チンポ なんてのも 出てくる 3つある
うわーっ 逃げるタヌキのうしろ姿
かわいい
一反木綿大好き 描くの楽だから
泣くおやじ
たんこぶおやじ
ビンタは こうだ
ビビビビビビッ
痛そう
鬼太郎の ボウシは チャンチャンコと おそろだ
おしゃれ
ニセねずみ男の服はハデ みんな気がつかない
鬼太郎の リモコン手
やらしいコトを 考えてるのは 誰だ
この辺 点描 省略
髪の毛バリを 使いすぎるとハゲる
吸血鬼 の ふとん
KYUKETUKI
かわいいぞ
ゲゲゲのゲ
ゲゲッ
砂かけばばあと子泣きじじいはいつも一緒
ひょっとして良い仲か？

鬼太郎が人気を得たのは、他のスーパー・ヒーローがどこか、学級委員の優等生風だったことに比し、のほほんと、ボーッとした少年だった面が強かったからだろう。

グロテスク・怪奇色の強かった鬼太郎は、やがて、のんびりした少年へと変わっていき、子供たちの人気者となっていった。

「ゲゲゲの鬼太郎」は、やがて敵と戦う対決ものの色合いを強くさせる。中でも有名なのは、〈妖怪大戦争〉〈大海獣〉〈妖怪獣〉といったところだ。

〈妖怪大戦争〉は、鬼太郎と砂かけばばあ、子なきじじい、ねずみ男が、魔女、フランケンシュタイン、ドラキュラたちと戦うものだ。バックベアードに率いられた西洋の妖怪と戦う作品だ。

鬼太郎は、髪の毛を念力で針化して武器とすることができる。しかしベアードには勝てない。祖先の霊毛で作った鬼太郎のちゃんちゃんこに乗って空を飛ぶ鬼太郎の父が、ベアードを倒すのだ。

〈大海獣〉は、少年科学者・山田によって、くじらの祖先・ゼオクロノドンの血を注入され大海獣化した鬼太郎が、東京で暴れる話だ。山田少年は、自らの名誉のためロボットを発明し、鬼太郎の大海獣を殺しにかかる。自衛隊はもちろん出動し、原爆まで発射される。

結局、鬼太郎は、山田少年が改心し、サラマンドラの解毒剤をまいたために助かる。山田少年は、ニューギニアでサラマンドラのこなをかけ、鬼太郎の威力を封じてしまっていたのだ。

鬼太郎は、あっさり山田少年を許してしまう。

〈妖怪獣〉は、日本の政権を奪う八百八狸と戦う話だ。八百八狸は、蛟龍(こうりゅう)、妖怪なまず、かなめ石を次々にあやつり、政権を奪う。

鬼太郎は苦戦するが、鬼太郎をふみつぶした蛟龍は、破れた鬼太郎の胃から漏れ出した胃液によって溶けてしまう!!

一反木綿が再生粉末をかけると、鬼太郎は再生する!! なんという生命力!

その再生しかけの液体のまま鬼太郎は、一反木綿の背に乗って妖怪なまずと戦い、なまずに飲み込まれ、北極圏へと誘い出し、凍らせてしまう。体内で、なまずを操縦したのだ。

かなめ石は、全てを石にする力を持つものだが、目玉の父とねずみ男は、四国山中で八百八狸を封じ込め、この戦いに勝つ。

しかし同時に、B52がかなめ石に水爆を落としたため、日本の首相は、アメリカ軍の力によって政権を再び手にしたと思い、鬼太郎たちは報われることはない。

彼らのことをわかるのは、「ゲゲゲゲ」と鳴く虫けらたちだけである。

なお、鬼太郎の初恋も描かれていて、'60年に三洋社から出版された「鬼太郎夜話」に登場する猫娘・寝子がその人だ。この「鬼太郎夜話」には、ニセ鬼太郎も登場するが、そののどかな性格は圧巻だ。

「ゲゲゲの鬼太郎」が楽しいのは、ねずみ男やニセ鬼太郎が、悪党風でも実は、のどかな点にある。

この背景には、水木しげるが戦争中、南洋の島ラバウルで、原地の人からかわいがられたということがある。水木しげるは、その島の酋長から一生この島で暮らすようにいわれた。のどかでユートピアのような島の人々が、水木マンガには投影されている。

なお「ゲゲゲの鬼太郎」には、ストーリーを書く人として宮田雪、荒俣宏らが参加していたらしい。ベトナム戦争をあつかったのは福田善之だとか。

妖怪漫画の巨匠

水木しげるさんとガン宣告された医師の

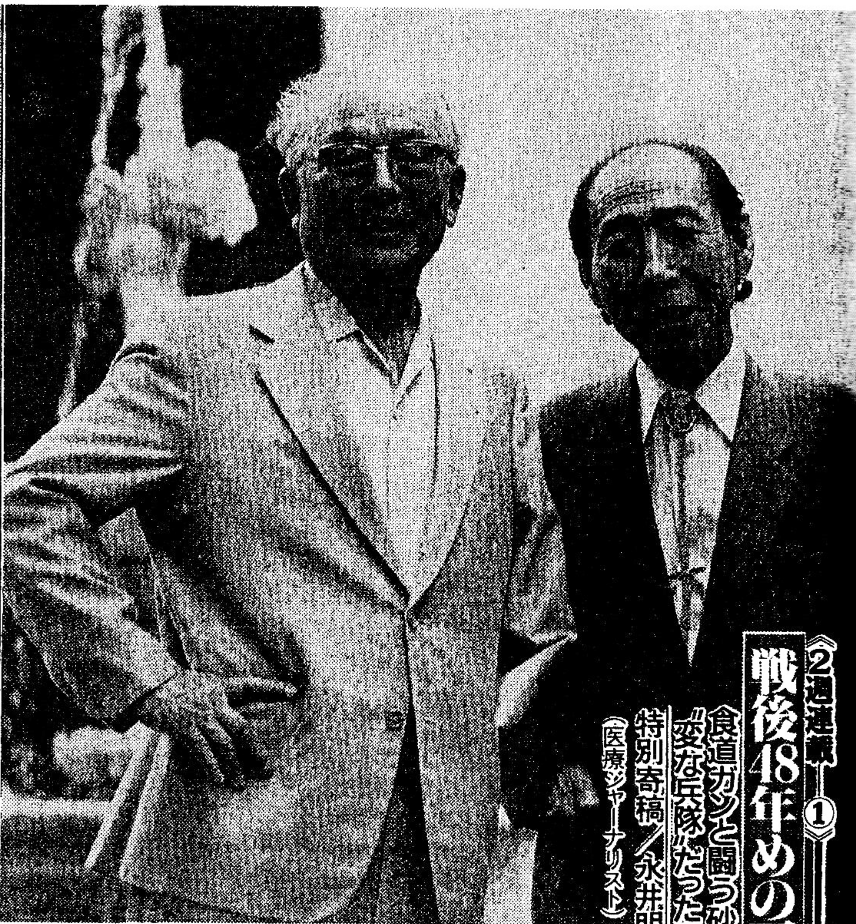
"落ちこぼれ友情秘話"

《2週連載①》

戦後48年めの再会に秘められた感動ドラマ

食道ガンと闘う砂原勝巳さんは、水木さんの命を救った元軍医。"変な兵隊"だった二人が語る戦争は、なんだか面白く聞こえる——。

特別寄稿／永井明（医療ジャーナリスト）



左腕を失いマラリアで苦しむ水木さん(左)は、砂原さんに救われた

いまから50年前、中国大陸やインドシナ半島、そして太平洋の島々で日本が戦争をしていたころの話である。

赤道近く、ニューギニアの東側に位置するニューブリテン島でも、連合国軍との間に激しい戦闘がおこなわれていた。当初は威勢のよかった日本軍もしだいに消耗。海と空を制圧され、じわじわと後退するしかなく、島の北部、ラバウル周辺に追いつめられた状態になっていた。

そんなところ、最前線から少しはずれたナマレ渓谷に「名誉軍人部」と呼ばれる部隊が結成された。この部隊は、「名誉の負傷」をした兵隊さんとその治療を担当する医療スタッフ——軍医、衛生兵で構成されていた。といっても、いわゆる野戦病院ではない。この部隊に所属する兵隊さんは腕や脚を失ったり、マラリアなどの風土病に悩まされてはいたが、病状としてはすでに急性期を脱し、いまでいうリハビリテーション段階にあった人たちである。

病院で積極的な治療行為をするほどではないが、もはや兵士として戦力にはなりえない。そんな彼らを元いた戦闘部隊に復帰させても、本人も困るし、部隊も困る。本土に送還しようにも、その輸送手段がない。どこにも行き場がないのである。「名誉軍人部」は、そのジレンマを解決する苦肉の策として設けられた部隊である。このナマレ名誉軍人部に、少し風変わりな軍医と、とても変てこりんな、左腕を失ったひとりの兵隊さんがいた。当時まだ、ともに20代の若者である。

その軍医だった砂原勝巳さんは現在75才。数年前まで兵庫県にある国立加古川病院の院長を務めていた病理学者である。変な兵隊、武良(むら)茂さんは69才。著名な漫画家「水木しげる」として、いまなお精力的に創作活動を行なって

週刊『女性自身』('93年9月21日号)より

いる。先日ぼくは、このお二人からその当時の話を伺うことができた。

＊　＊　＊

戦争の現実とはどんなものか、そのなかで人はどのような精神状態に陥るのか、どのように生き抜き、また死んでいくのか……。100人の人間がいれば100通りの戦争体験がある。これまでも、いろんな人たちがいろんな形で戦争体験を語ってきた。そしてそれらは、それぞれに意味深い。あるいは、戦争の話なんかもう十分だ、聞きたくないという人もいるかもしれない。それでもなおぼくが、砂原さんと水木さんの話を聞き、それをこのような形でレポートしたいと思ったのは、彼らが兵士としては「落ちこぼれ」だったからである。

「砂原軍医は演習中よく、ジャングルに向かって『オーソレミオー』なんて歌っていました。変な人だと思いましたね」



久しぶりの再会。水木さんは砂原さんの体の調子を気づかっていた



戦後もたびたび水木さんは、島の人々を訪れている。炊事の風景

かく言う水木さんも軍律やぶりの常習犯である。

「どういうわけか、規律を守らなければならないという意識が、軍隊に入ったときからあまりなかったですね。だいいち、お国のために尽くすというのがよくわからないんですよ。どうして、そうしなければならないのか。それに、ほかのことに興味が向くんですよ。食べ物のことを考えたり、きれいな景色を見ていると、点呼のことなどすぐに忘れてしまうんです」

当時の常識から考えると、けっして真面目とは言いがたい二人の目に、戦争はどのように見えていたのかぼくはとても関心があったのである。

戦地で絵を描く兵隊

昭和18年、水木さんは「赤紙」で召集され、ラバウルのあるニューブリテン島に送り込まれる。19才のときだった。そして最前線へ。作戦行動中、敵の奇襲を受け部隊は全滅。たまたま歩哨に立っていた水木さんひとり生き残り、ジャングルの中を1週間さまようことになる。そして奇跡の生還。だが、そのときの無理がたたり、マラリアが発症する。それで、40度以上の高熱に何日もうなされていたとき、敵機の爆撃を受けて左腕を失ってしまったのである。そして、水木さんはラバウルから少し離れたココボというところにある野戦病院（第一〇三兵站病院）に収容され、砂原軍医と出会うことになるのである。

「彼は入院患者だから白衣を着ていたんですが、その小脇に、トタンの切れ端を利用したスケッチブックのようなものを抱えているんです。こんな戦地の真っただ中にいて、それでも絵を描こうという兵隊さんがいるんだな」

自らも絵心のあった砂原さんは、そんな水木さんに興味を覚えたという。砂原さんは昭和17年秋、旧制の金沢医科大学を繰り上げ卒業し、その年の暮れに軍医として任官。翌18年2月、水木さんとほぼ同じ時期にラバウルに送り込まれ、戦傷病者の治療にあたっていたのである。

この第一〇三兵站病院には20人ほどの軍医がいた。ふだん彼らが詰めている医局で水木さんはしょっちゅう油を売っていたという。軍医はみんな将校、水木さんは一兵卒である。いちばん下っ端の兵隊が将校クラブのようなところに出入りし、だべっているという図はなかなか想像しにくい。だが、水木さんはひょうひょうと現われ、将校たちと絵やら食べ物などの話をしていくのである。

『昭和史　第5巻』（講談社）より



将校に反抗して重営倉に入れられそうになる水木さんを、砂原さんが弁護して‥



村の老婆イカリアンは
水木さんの"心の母"だ

これはおそらく、水木さんの誰に対しても物怖じしない態度、天真爛漫さが軍医たちの気持ちを和ませたからなのだろう。そしてまた、軍医もたしかに軍人には違いないがそれより先にまず医者だったということだと思う。

「わたしが敬礼するのをよく忘れるもんだから、『軍隊では敬礼をしなきゃいかんのだよ』と注意されましたが、それだけでしたね。軍医はほかの将校とは違いますから。まあ、一般的に人間らしい人が多かったですよ」

現在、医療の現場では、お医者さんと患者さんとの意思疎通があまりうまくいっていないことが、よく指摘される。だが、野戦病院では、水木さんほどではないにしても、「軍医とはよく話しました」という人が多い。もちろん状況の違いは大きいが、なんだか面白い話だ。

まあ、それはさておき。その中でも、とりわけ軍人らしくないのが砂原軍医。「軍刀をときどき忘れ、先任の将校に注意されていましたね」という人である。そんな、ずっこけ将校の砂原さんに、兵隊ばなれしている水木さんは、「この戦争はもうおしまいですね」と耳打ちする。

本音をもらしても大丈夫だという砂原さんに対する安心感が、そんな禁句をつぶやかせる。

天国みたいなところ

砂原さんは、はじめに触れた「名誉軍人部」の専任軍医として、水木さんたち戦傷兵とともにナマレに移動する。

いわゆる病人でも、ちゃんとした兵隊でもない。そんな奇妙なポジションにおかれた彼ら名誉軍人部のおもな仕事は、「いざというときのために、大八車を敵の戦車に見立て、地雷をもって突撃する訓練もあった」が、けっきょくは自分たちの食糧を自給するため、畑を耕すことだったらしい。だが、南国でいくら作物の成長が速いとはいえ、十分な量の収穫は望めない。兵隊さんたちはみな、いつもお腹を空かせていた。

そんな状況になると、胃腸の働きと好奇心が人並みはずれて旺盛な水木さんの真骨頂がいかんなく発揮される。

名誉軍人部が位置していた場所の、もう一段上の高台には、ずっと昔からその周辺で焼き畑農業を営んでいる現地の人たちが住んでいた。

水木さんはぶらりぶらりと山道をたどり、断崖を越え、彼らの村にひょっこりと訪れる。

「まわりにはパンの実がいっぱいなっていましてね。きれいな花もたくさん咲いてるんですよ。なんていいところなんだろう。戦争なんて忘れてしまいましたね」

そんな水木さんの率直な感動が、からだ全体からあふれ出ていたのだろう。村の人たちは、彼をごく自然に受け入れた。そして、食事までふるまってくれたのである。

とりあえずの意思疎通手段は邪気のない笑顔だけ。それで水木さんは、軍医たちと親しくなった調子で、彼らともすぐ友達になってしまったのである。

それ以降、水木さんはしばしば村に出入りするようになる。また、彼がマラリアの発熱で動けないときなどは、村から逆に部隊まで、少年トペトロが果物やら何やらを運んでくれるのである。

「その村の長老、老婆のイカリアンがわたしのことを気に入ってくれて、そうするように指示していたんです」

それにしても、このあたりの水木さんの同化力は、ほんとうにすごいと思う。彼は村の人たちからパウロと呼ばれるようになる。

いくら傷病兵ばかりで戦闘の役には立たないとはいえ、名誉軍人部も形のうえでは軍隊である。なかには規律にうるさい将校もいる。水木さんがしょっちゅう抜け出しては村に行っていることが発覚し「今後、村に行くことはまかりならん」という厳重命令が出てしまったのである。

しかしそれでも、村通いをやめようとしないのが、水木さんの水木さんたる所以である。

「呼びにくるんですよ。『踊りがはじまるぞ』って。せっかくの招待なんだから行かなくちゃならんでしょう。それに、美人もいたし。天国みたいなところですから」

どこまでも兵隊向きにはできていない人だ。戦争の話というと、ふつう暗くなりがちだ。それが、水木さんの話を聞いていると、なんだか楽しくなってしまうから不思議である。

しかし水木さんの悪運も尽きたのか、ある日、村に見回りにきた口うるさい将校とばったり出くわしてしまう。そして、彼は目を剝かんばかりに激怒したのである。

まずは往復ビンタ。これまでなら、それですんだ。だが、そのときは違っていた。

「お前のように軍律を乱す奴は見たことがない。頭がおかしいに違いない。重営倉に入れてやる」

その将校の怒りはいっこうにおさまらないのである。名誉軍人部には監獄などない。あらたに穴を掘ってでも、彼を閉じこめる勢いだ。

大ピンチ。万事休した水木さんの耳に、砂原さんの声が聞こえてきた。

「彼は気がふれているわけではない。ただ、少し変わっているだけだ。監禁などする必要はない」

ずっこけ軍医が、変わり者の、だが愛すべき兵隊さんの窮地を救う。たとえ戦時下であろうと、人間まんざら捨てたものじゃない、のである。

〈以下次号〉

水木しげるさんとガン宣告された医師の戦後48年めの再会に秘められた感動ドラマ





「自分のリズムで生きる人のほうが生き残る」と砂原さん

水木しげるさん(69)と砂原勝巳さん(75)が軍隊組織での落第生だったことは先週話した。とりわけ水木さんの落ちこぼれ具合はすさまじく、徴兵されてから3カ月間、ほぼ毎日殴られ続けていたという。

「鉄砲を操作するとき、ネジをこうカチッとやるわけですね。わたしは、いつもそれができていない。はじめは新兵数十人、みんな殴られるんですよ。それがだんだん減って最後はわたし一人になってしまうんですね。それでも、ちゃんとできない。そうすると『この男はほんとうにだめなんだ』と匙を投げられて、ある種の特別待遇になってしまう。楽になるんです。たとえば、夜中に非常呼集がかかると、上等兵がすっと飛んできてくれて、全部やってくれるんです。その部隊の不名誉になるとまずいということなんでしょうね」

徹底した落ちこぼれになれば(これは容易いことではない)、治外法権的なポジションを確保できるということなのかもしれない。

そんな水木さんが最前線に送り込まれ、所属部隊が全滅したとき、1週間ほとんど飲まず食わずでひとりジャングルをさまよい、奇跡の生還を果たす。落第兵だけが生き残った。これは、どういうことなのだろう?

彼が生きのびたのは、「ぜったいに生き抜く」という強い意志と、その場その場で、臨機応変の判断をしたからだという。

「内地ではいろんな教育をします。たとえば、鉄砲には菊の御紋章がついている。つまり、これは陛下からのお預かりものだから命より大切にしなくてはならない。もちろん手入れを怠ってはならないと教え込まれるわけですよ。しかし実際、前線に行くと価値観がひっくりかえってしまう

やはり自分の命のほうが大切だということを思い知らされるんですよ。

たとえば、第37師団の連中がジャングルの中を千キロ以上を歩いてラバウルまで戻ってきたことがあります。その中に、ひとりとして鉄砲を持っている兵隊はいなかった。飯盒と水筒と箸、それにナイフはもっているけど、鉄砲はとても重いからみんな途中で捨ててくるんです」

そして水木さんは、「真面目な人ほどよく死んだ。それは、応用問題ができないからだ」と言う。砂原さんが付け加える。

「きちっとしたシステムの中で、物ごとをそつなくこなしていく人。そういう人が『真面目だ』ということですね。最前線では、そういったシステムをあまり意識しないで、自分のリズムで生きている人のほうが、どうも生き残るような気がします。大きな爆弾かなにかで、みんながいっぺんにドカーンとやられる。これはもう天災のようなもので仕方ありません。しかし、ひとりでほうり出され、状況がまったくわからないようなとき、自分でどう判断し、どう行動するかということになると、かなり違ってくるでしょう。

成り行きまかせ、運まかせていくのか。自分の判断力を最大限に発揮して生き残っていくか。たぶん、わたしは前者で、水木君は後者じゃないのかな」

いずれにせよ、そんなとき「真面目な人」は脆い。

いま、ぼくたちが生活している現代社会は、きわめて高度にシステム化されている。これは、より合理的で高い生産性を追求したことによる必然的な帰結だろう。それがいいのか悪いのかという議論はさておく。

もちろん、軍隊というシステムと現代社会の管理システムとを同一レベルで語ることはできない。だが、なにやら社会全体が漠とした行き詰まりを感じ、乱世への突入でしか、その鬱積したエネルギーを発散できないような雰囲気の昨今である。この二人の話が示唆するものは、けっして小さくないような気がする。

水木パウロ族長

水木さんたち名誉軍人部の兵隊さんは、8月15日に戦争が終わったことを知らなかったという。将校だった砂原軍医にもわからなかった。

「そのころ、毎朝10時になると敵が定時爆撃に来るんです。それが来なくなって、おかしいなと思っていました。後で考えてみれば、その日が8月15日だったんですね」

そして数日後、部隊長から敗戦の報を聞かされることになる。

戦争の形勢が悪い、いや絶望的な戦局であることは、みんなとっくに気づいていたらしい。わかっているのに、最後まで「突撃、突撃」を繰り返す。それで、生きて帰れるはずだった人がたくさん死んでしまった。今考えれば、なんでそんな無意味なことを、と思う。なんとか食いとめることはできなかったのか。

だがそれを、当時その渦中にあった人たちに求めるのはあまりに現実離れした注文の

水木さんに帰国を勧めたのは砂原さんだった



『昭和史 第6巻』(講談社)より

「落ちこぼれの兵隊と ずっこけ軍医は、生き残った！」

特別寄稿／永井 明（医療ジャーナリスト）



「死んでいく兵隊は、ものすごく生きたがっていたんです」と水木さん

ようだ。個人の力はあまりに小さい。奈落に向かって転落しはじめた軍隊という巨大なシステムは、結局行き着くところまで行って、自己崩壊するしかなかったのだろう。それにしても大きすぎる犠牲、なんとも無残な話である。

集団というものには、いつも、そのような暴走をしてしまう危険性をはらんでいる。「……だから」ではなくて、「……にもかかわらず」そうなってしまうものらしい。ぼくたちは、そのことを忘れてはなるまい。

それはともかく。敗戦で名誉軍人部は解散。終戦の翌年、水木さんと砂原さんは3年ぶりに日本の土を踏むことになる。この帰国に際し、水木さんならではの面白いエピソードがある。

彼が現地の人たちととても親しく、パウロという名前までもらっていたことは前に話した。さらに彼は自分で畑も作っていた。

「ここにいれば、最低限の衣食住は保証される。それに、森の人たちはみんな楽しそうに生活をしているんですよ。月を眺め、寝そべって話したり、踊りを踊ったり。わたしに色目をつかう若い娘もいましたしね」

現地の人々からも「一緒に暮らそう」と強く勧められた水木さんは、現地除隊して、そのままこの南の島に残ることを本気で考えはじめる。

結果的には、「とにかく一度日本に戻って、ご両親に会ってから……」と砂原軍医に説得され、とりあえず帰国することになるのだが、もし、そのとき水木さんが残っていたら、どんな具合だっただろう？

「10年くらいは間違いなく楽しく暮らせたでしょうね。今よりずーっとよかったかもしれない」と水木さんは言う。あるいは彼なら、そうかもしれないと思う。

横井さんとか小野田さんなど、戦争が終わったことを知らず、戦後何十年にもわたって南の島に隠れていたという兵隊さんがいる。

また、現地の独立運動に参加して、その一生を、たとえばカンボジアやビルマで過ごしたという元日本兵もいるらしい。

だが、水木さんのように、「きれいな月を眺め、毎晩踊って楽しく暮らしたいから」という理由でそのまま現地にとどまったという人の話は聞いたことがない。

ぼくは、「水木パウロ族長

週刊『女性自身』（'93年９月28日号）より

さん」のインタビューをしてみたかった気もする。

国がくれたもの

復員後、砂原さんは京都大学で病理学の研究生活に入りその後神戸大学に移る。そして、アルバイトのつもりで研究指導に行っていた国立加古川病院に勤めることになり、そのまま病院長にまでなってしまう。これは砂原さん本人が望んだというより、「成り行きで、そうなってしまった」ということらしい。

砂原さんは3年前、食道ガンで大きな手術を受けた。幸い経過は良好である。その話が出た際、水木さんから「転移は？」と尋ねられ、「あるかもしれないし、ないかもしれない。もちろんないことを願っているけどね」と笑っていた彼の言葉が印象的だ。

戦地でも病院でも、また医師としても患者としても、砂原さんの人生に対するスタンスはいつも同じ、しなやかだということである。

水木さんは、とりあえず美術学校に在籍するが、糊口をしのぐために描いていた紙芝居がきっかけとなり、漫画家としての道を歩むことになる

その後の活躍ぶりは、いまさら説明する必要もないだろう。今、彼は「妖怪」と仲のいい友達である。

軍隊という組織で落ちこぼれていた二人の青年が、半世紀を経て、社会的な成功者として相まみえる。興味深い人生模様だと思う。また先年、水木さんと砂原さんは、彼らがなじめなかった国家（システム）から勲章をもらうことになる。

敗戦を境に体制が変わったとはいえ、50年前彼らに国家がくれたのは鉄拳制裁と飢えと病気。そして今、立派な勲章。これ以上の皮肉はあるまい。

ぼくはここで、「多少落ちこぼれても心配ない。辛抱していればそのうち、きっといいことがある」という安直なメッセージを送りたいわけではない。この二人はむしろ例外だろう。どうにかはい上がりたくても、落ちこぼれ続ける人のほうが圧倒的に多いのが現実だ。

そう、ひとりの力ではどうしようもなく大きな時代の流れに翻弄され、生きていくということはときに苛酷ですらあるのだ。それでも、ぼくたちは生きなくてはならない。

砂原さんは言う。

「生き残った人間というのは自分たちがくぐり抜けてきた戦争の悲惨さとか不合理さ、非情さというものを、天災だったというふうな感覚でとらえがちなんですよ。少なくともぼくは、そんな感じですね。だけど、赤紙一枚で戦地に連れていかれ、亡くなった人たちは無念だと思います。彼らは、国家に対して異議申し立てをしたくても、もう声も出せないんですから」

水木さんも言う。

「そうです。わたしも戦後20年間ぐらいは、あまり人に同情しなかったんです。戦死した人間がいちばんかわいそうだと思っていましたからね。野戦病院にいたからよく知っているんです。死んでいく兵隊は、ものすごく生きたがっていた。彼らは死にたくなかったんですよ」

ぼくは、なにも言えない。

ただ、彼らの話を聞いて、考えることはできる。それしかできない。（おわり）

村の人たちの住む世界はまるで天国だった



『お父さんの戦記』（河出文庫）より

証言

〔水木伝説・会長：馬場茂幸〕の場合

幸治亮君という男は、真面目で純粋な男である。本当に今時珍しい若者で、「曲がったことが大嫌い」という性格で、時々音信不通になる以外は、申し分無い性格の持ち主である。

何故か？良く眠るところがある。

〔水木伝説・イベント企画部長：米吉和久〕の場合

ホモという噂があるが、ホモではない。

昨年のキャンプで、ひとりエッチしていた。でも、エクスタシーには達してなかったようだ。

しかし、彼のおかげで、色々と思い出に残る迷場面が見れるので、どうにか役に立つ男だ。

宇宙企画、ダイヤモンド映像でも頑張るように。関西に住むようになったら、色々遊びにいこうぜ。

いつまでもお元気で。さようなら。

店長より（うふ💔だって愛なんですモノ）

〔水木伝説・編集長：瀬戸信行〕の場合

アレを初めて見たのは、３年前の夏でした。アレが車から下りた途端にビデオカメラをまわし始め、こちらによってきたのです。こんな経験は初めてなので、思わず首を前後左右に動かしてしまいました。私は、何とも言えないような気分でアレを見つめていました。

……なんや、このケッタイナヤツは……。

ケッタイナヤツの名はコウジリョウ。中国系でもベトナム系でもない。

彼の名前は、幸治亮。ホモ系の人間だ。

関西に憧れ、関西を愛し、関西を恐れ、関西人に虐められ、そこまでされても毎年キャンプに参加する変な東京人。毎年、スタッフの玩具にされ、おちょくられ、みんなに嫌われているように見える。しかし、気を落してはいけない。幸司亮の元気な顔と抜群のカメラワークを見れるからキャンプが愉しみなのだと、スタッフの誰かが洩らしたのを聞いた……ことがない。


水木しげる
VS
大泉実成



SHIGERU MIZUKI

縄文時代の人はみんな頭の中にテレビを持っていたんですよ

精霊信仰が復活すべき時代だ。飯を食うことだけを追っても、幸せにはなれない。もっと素な生き方があるのに……。巨匠・水木しげると、水木アニメ世代のノンフィクション作家・大泉実成が、ここに精霊元年を宣言する。

マレーシアの精霊が2人を引き合わせた……。水木氏流に言うと、そうなる。本誌の取材でマレーシアのセノイ族とともにジャングルで暮らした大泉氏は、その際に、水木氏の著書『日本妖怪大全』を持って行き、セノイ族の人々に見せる。これが大好評だった。帰国後、そのことを本誌などでリポートしたが、偶然それが水木氏本人の耳に入る。それがきっかけで出会った2人は、すっかり意気投合。水木氏は、「大泉さんと、セノイ族に会いに行くことが、自分の運命だ」と、強く主張している。

大泉　僕がマレーシアのセノイ族のところに行った時に、先生の『日本妖怪大全』を持っていったんです。それがすごくウケまして、これは向こうの夢の文化と日本の妖怪が何か共通するんじゃないかと考えたんです。

水木　結局、妖怪というのは、いろいろ追っていくと、精霊ですよ。縄文時代ぐらいのかなり長い間に精霊信仰というのがあって、その残り滓みたいなものが妖怪なんですよ。で、水木さんは（水木氏は自分のことをこう呼ぶ）もともと妖怪を集めることによって、何かを突き止めるという目的があったわけです。水木さんが精霊に導かれるというのは軍隊でニューギニア、ニューブリテン島へ行ったことから始まるんです。

大泉　生き延びられて日本に帰って、絵を描くようになってから、もう一度そこへ行かれてますよね。

水木　戦地として連れて行かれたところは原始の生活をしていて、それがよかったんですよ。そこに住む土人（先住民）は午前中は働いて、午後は働かないんです

大泉　僕もセノイ族のところに行って、初めはゴキブリやサソリもいるし、なんというところだろうと思っ

みずき・しげる　本名・武良茂。22年鳥取県生まれ。『ゲゲゲの鬼太郎』を生んだ日本一の妖怪漫画家。戦争中ラバウルで左腕を失う。NHK『のんのんばあとオレ』で文化庁芸術作品賞受賞。平成3年、紫綬褒章受章

たけれども、だんだん住んでいると気持ちよくなってくるんですよね。東京でため込んだストレスが、みんな溶けていく感じなんです。

水木　軍隊の時は、爆撃されないように、火を付さずに穴の中に寝るんですよ。毎日、夕方に鳥が鳴くと、すぐに寝るんです。その頃は若くて望郷が強かったし、日本のことをやたらに見たくなるんですよ。では、

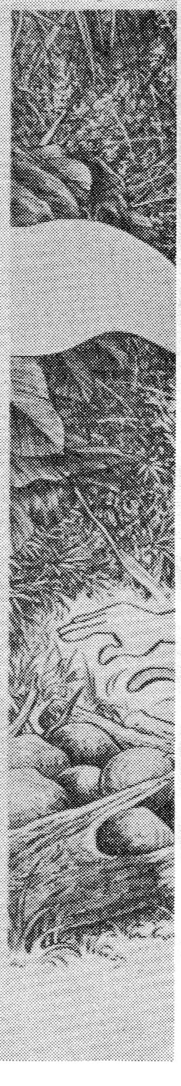


水木ワールドは万国共通。セノイの子供たちにも大人気

見ようとするんです。寝ながらね。そうすると、しまいに頭にテレビができて、見えてくる。

大泉　それこそ、見たい夢をある程度、見られるという感じなんですね

水木　そうなんです。あれは驚きですよ。何もないジャングルだからこそ、本当のものが見えるんです。それで私は子供の頃の記憶を映し出して、それは妖怪だったと発見するん



おおいずみ・みつなり　61年東京生まれ。『説得』（現代書館刊）で講談社ノンフィクション賞受賞。91、93年と2度、本誌の取材でマレーシアの原住民セノイ族と共同生活をし、彼らの夢文化について連載

です。あれは不思議なことでした。

大泉　僕がセノイ族のところへ行った時も、やたらに向こうの精霊が夢に出てきましたよ。

水木　森の精気を吸っとるから、そこが違うところですよ。都会の精霊を吸ってるのとは違うから。精霊信仰というものは、大昔にあって退化したような信仰のように考えられていますけど、それが、そもそもの過ちなんです。森へ行けば、誰でも感じられるんですよ。

大泉　セノイ族は文字は持たないけれども、「僕たちは夢で伝達しているから大丈夫だ」というんです。

水木　そうなんです。夢や無意識の状態というのは、精霊を感じる力が、覚醒時の5倍もあるらしいんですね。その夢の中に、いろいろな縄文時代の知恵とかも含まれているんですね。それに比べて、覚醒している時、人間が何を考えているかといえば、飯を食うことと、残りはオマンコのことですよね（笑い）

大泉　現代社会では、飯を食うこと、金儲けがとても重要なことになってますからね。

水木　だから会社に真面目に勤めて、それしか世の中にはないと思ってる人が多い。銀行通の人とか、特にそうでしょ。で、政治家がそれに追随するでしょ。だから変なことになってるわけですよ。今こそ政治家に精霊信仰を植えつけなければいかんですよ。日本では仏教などが入ってきて、屁理屈を言うような、もっともらしい宗教が幅をきかしているでしょ。

大泉　今日はその話をしようと思ってきたんです（笑い）。今現在、妖怪

MITSUNARI OHIZUMI

僕らは、水木アニメでアニミズムへの感度を養った



妖怪・精霊・夢のメッセージが現代人を幸せにする

みたいなものは、大宗教によってどんどん後ろに追いやられて、影の存在になってきていますよね。例えば欧米では、キリスト教が精霊信仰を全部、押しやってしまったんですね。セノイ族では、それがイスラム教なんです。

水木　そうです。「救う」とか、「御利益」が非常に強くあるほうに、みんな目を向けてしまって、本当の大昔からの精霊信仰が失われつつあるわけです。それで水木さんは10年とか、15年くらい前から〝出雲の王〟が無念さを訴える夢を見るんです。

大象　例の、夢のお告げのことですか？『不思議旅行』の中で先生が書いていた、『出雲風土記』ができるまでの話を書けという……。

水木　だろうと、最初は思ってたんです。でも、『出雲風土記』の話じゃなかったんです。昨日、お宅が来るというんで考えていて発見したんです。出雲は精霊信仰のメッカだったんです。水木さんは、〝出雲の王〟から精霊信仰の復活を命じられたんです。

大象　水木先生によって、精霊信仰が蘇るんですか？

水木　そうです。精霊の紀元元年なんです。そして、『世界精霊大事典』を完成させたいんです。水木さんは精霊に導かれているんですよ。イースター島に行けば、博物館にあるのとまったく同じ妖怪の人形を手に入れることができる。ニューギニアの火祭りを見た時も「ぬりかべ」に会うんです。踊っている人間の動作でなく、「ぬりかべ」的動作なんです。

大象　材質的にも壁っぽい感じなんですか。

水木　そうです。日本の妖怪を700種類ほど頭に詰め込んでいくと、アフリカやペルーに行っても全部わかっちゃうんですよ。この妖怪は何の妖怪かと。水木さんは日本の妖怪で鍛えられているから、僅かなことでもキャッチできるんですね。世界の妖怪は同じものがいるんだと。同じ霊が1000いて、名前が変わってるだけだと。

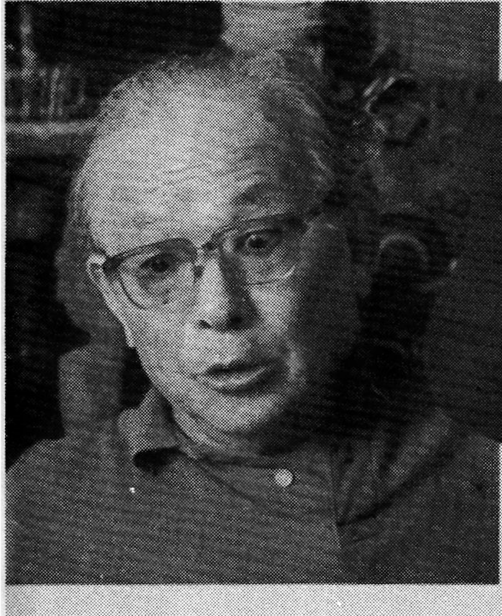
大象　人間は、常にどこの国に行っても、そういう1000ぐらいのパターンの妖怪のようなものに囲まれて、生きているということですね。

水木　そうです。だから、私はよその国に行ってはじめて元気づいたんです。妖怪の存在を感じたり、一瞬でも驚いたりとか、そういう体験をして、はじめて活性化されるわけです。縄文時代から言われている精霊というものは、だいたい1000種類です。イエーツという、妖精を研究している詩人がノーベル賞をもらっていますからね。

大象　イエーツに比べれば、大発見ですよね。それはノーベル賞を当然もらうべき業績ですね（笑い）。

水木　そうなんです。しかし、残念なことに、死後もらうことになるでしょう（笑い）。

大象　そんなことはないでしょう。先生の家系は長生きだとおうかがいしてますから（笑い）。ところで、僕が子供の頃、ちょうど世間では受験戦争でしたが、先生の「ゲゲゲの鬼太郎」の主題歌で、「朝は寝床でグーグーグー」というのを聞いて素晴らしいなと思ったんです。それで影響を受けて僕はフリーライターになったんですけど（笑い）。



バカバカしくて苦しい生活環境。そして、意味のない戦争ですよ



朝は寝床でグーグーがうらやましかった

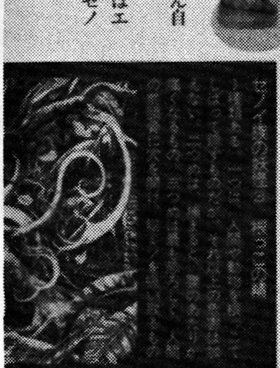
水木　それで、やっぱり水木さん自身も、落ちこぼれなんですね。

大象　でも、水木幸福学の中ではエリートではないですか（笑い）。セノイ族の子供もすごく寝てますよ。

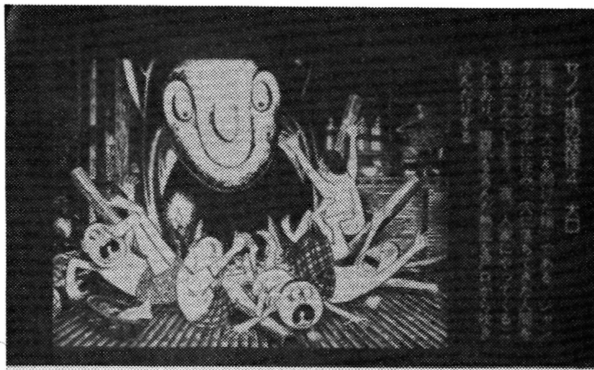
水木　水木さんも寝るんです。朝6時頃に目が覚めて、また寝る。その時にいろんなことがあるんですね。

大象　やはり2度寝ですか。僕も2度寝するんですけど、その時にいろいろ夢を見たりするんですよね。

水木　そうなんです。あれがいいんです。私は夢うつつの時に、すべて発見するんです。漫画の話の筋もね。目覚めて起きているんだか寝ている







んだかわからんような時に、いい考えが出るんです。

大泉　僕がセノイ族に会って精霊の話を理解できたのも、水木アニメのおかげなんでしょうか。

水木　それはある程度あるでしょう。お化けというのは、こんな感じでおもしろいということがわかっていれば、精霊を感知しやすくなるんですよ。だから水木先生には、何か憑いてるんですよ。本人は意識しないけれども、知らない間に入られて、私はもう半妖怪ですよ。私自身も妖怪になんでこんなにこだわるのかって考えたことがあるんです。でも、それは男が女を好きというようなことに還元されてしまうんです。妖怪ものだと全然疲れない。徹夜してでも一生懸命描くんです。他の漫画を描く時はグニャなんですけど。



大泉　先生は以前、「コロボックルの杭」という漫画を描かれましたね。あの内容はセノイ族とすごく共通するものがあるんです。セノイ族は、夢の中で狩りの情報や、ダンスなどの文化を伝えているんですが、先生の漫画は、確か宇宙船の乗り方を夢の中で伝えるというものでしたね。あの発想には驚きました。

水木　あれは偶然なんです、すべて作り話なんです。だから不思議なんですよ。私の漫画は作り話だけれども全部、筋が通っていてね。理屈に合うんですよ。だから何か憑いているんじゃないかって、しかもちゃんと後々本になるんです。ここが大事なところなんですが、全然、何も考えていないんです。それなのに、精霊信仰と辻褄が合うんですよ。

大泉　ほんとにそうですね。

水木　妖怪の絵を描いてるでしょう。その絵ははじめからずっと同じ絵だから、いつでも何十回でも使えるんですよ。15年か20年前から。妖怪たちは生活を困らせないように水木さんを助けてくれているんですね。意識したわけじゃないんです。水木さんはそんなに賢くないんです。



夢で見た精霊を木彫にするというセノイ族の職人

日本人は幸せを、消しゴムで消している



大泉　当時、「ゲゲゲの鬼太郎」を描いていた頃も、精霊信仰を意識していたわけではないんですね。

水木　私はね、軍隊でも特別に苛められたり、罰を受けたりしていたんですね。それで当時の社会とか、その仕組みに反発を感じていたわけです。で、土人を見ると、ゆったりとした暮らしをしてるんですね。それを見て他の軍曹は、「バカだから、ああいうふうにしてるんだ」というようなことを言うんです。でも、賢いはずの日本人は、戦争というバカバカしい生活環境の中で一生懸命でしょ。それも意味のない戦争です。彼らのほうがずっと幸せだし、考え方もいいんですよ。

大泉　セノイ族でもそうですけど、狩りして疲れて寝て、朝起きて水浴びしてという、本能的な生活は、もっとも幸せなんですよね。ところが妖怪が誕生して、それが狩猟時代から農耕時代に移っていくにつれて変化していって、いわゆる農耕社会を治めるために大宗教ができていく。その結果、精霊信仰は時代とともに抑圧されていったわけですね。

水木　そうなんです。だから、まともに普通に飯を食っていこうと思って、今の世の中にあまり染まっちゃいかん（笑い）。万物に生命が宿っているという、そういう素直な信仰を大事にすれば、人間は幸せになれるはずです。それを消しゴムで消すようにしているんですね、みんなは。

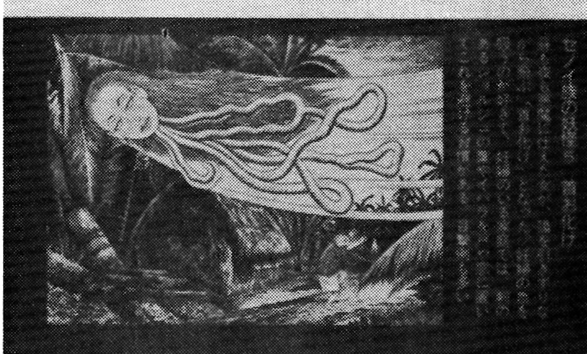
大泉　先生の場合、絵を描かれることが、僕らの精霊信仰の復活に繋がるんですね。

水木　そうなんです。それもやっぱり精霊の導きなんですよ。私もセノイ族に会いにいかなくちゃならん。この忙しいのに（笑い）、大泉さんと会うことになったのも、やっぱり導きによるものなんです。妖怪がおるということもそうなんだけれど、精霊信仰の繋がりだってことで、最近、楽しくてたまらないんです。

大泉　僕なんかもそうなんですけれども、そういう目に見えない存在がいたほうが、生活が楽しいとか、ツヤツヤしている気がしますよね。

水木　そうなんです。楽しいんです。そうでないと、人はノイローゼになっちゃうんです。

構成／森本和美　撮影／岸 圭子　絵／水木しげる





フハッ増刊
† 幸治亮の音信不通 †

平成６年１月１５日発行
編集／幸治亮
編集補佐／馬場茂幸
瀬戸信行
米吉和久
印刷／プリントハウス
発行／水木しげるＦＣ・水木伝説
〠654－01 神戸市須磨区北落合３丁目38－217－709 馬場方



製作／水木しげるＦＣ・水木伝説